

# 広報 きたもと

8月  
2018 No.966

特集面

きつと、もつと、きたもつが好きになる 旬な話題をお届け!



[特集] 災害のとき、大切なのは地域のつながり

## 地域が地域を守る。

### 平成30年7月豪雨災害 義援金の募集

前線および台風7号の大雨等により、西日本を中心に甚大な被害が出ています。この災害被災地を支援するため義援金を受け付けています。市民の皆さんの温かいご支援をお願いします。

受付

- 総合福祉センター
- 福祉課7番窓口  
(☎594-5534)





昨年10月、台風21号により朝日地区の道路が冠水している様子

誰もが助け合える  
地域でありたい。

何気ない日常が  
一瞬にして変わる

決して忘れてはならない、平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」。あれから7年が経過しました。その間にも長野県北部地震、熊本地震、そして今年6月には大阪府北部を震源とした震度6弱の大きな地震が発生しています。

また、台風や集中豪雨による被害も毎年のように各地で発生し、私たちの日常を一変させてしまうような大きな被害をもたらしています。

北本市でも災害は起こる

「北本市は地盤が固く大きな災害は起こらない。」そう考える人がいます。ところが、政府の地震調査委員会が今年6月26日に公表した「全国地震予測地図」によると、北本市は、今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が26%以上の高い地域であることが示されています。

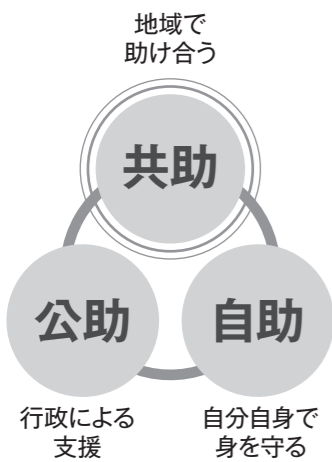
また、昨年10月の台風上陸時には、朝日地区の道路等で車が水没するなどの冠水被害が発生しています。災害は他人事ではなく、この北本市でも起こるのです。

共に助け合う  
「共助」の重要性

大きな災害が発生したときに重要なことは、自分自身で身を守ること、地域住民で助け合って地域を守ること、行政の救助・支援、すなわち「自助、共助、公助」です。災害の発生直後、自分だけでは避難が困難なとき、公助だけでは限界があります。そこで、過去の災害からも実証されているとおり、地域で助け合う「共助」の取り組みが重要視されています。

災害が発生したとき、自助はもちろん、地域が一丸となって、人のために、地域のために協力し合うことが大切です。

今回の特集では、地域を守る、共助の中心的な組織「自治会・自主防災会」と「消防団」で尽力する人たちを紹介いたします。



# 災害は 起こる。



【特集】災害のとき、大切なのは地域のつながり

## 地域が地域を守る。

自治会・自主防災会

消防団

いつ起こってもおかしくない災害から身を守るには、個人の日々の準備が必要です。また、日ごろから地域の中で声をかけ合い、困っている人がいたら手を差し伸べる「共助」も重要とされています。共助によるまちづくりのために自分自身ができることを考えてみませんか。

### まちづくりの原点は自治会

いま、あらためて自治会のあり方が注目されています。その背景には、東日本大震災や熊本地震などの大規模災害に見舞われた地域で、住民の助け合いや支え合いが重要であったという事例が多く見られたことがあります。大きな災害時などは、行政の支援には限界があるため、地域に根差した自治会組織の存在が地域の支援活動に大きくつながるのです。

また、高齢者や子ども、女性を狙った犯罪が増える中、地域ぐるみでの防犯の重要性が高まっています。不測の事態にも対応する最も身近なよりどころとして、自治会の役割はますます大切になっています。

### 自治会が元気で安心・安全なまちをつくらせています!



(写真提供: 東間3丁目自治会)

自治会では、地域の人々が住み良く暮らすために、防犯・防災・環境美化等の活動や交流を深める行事を行っています。日ごろから顔の見える関係を作り、いざというときに誰もが助け合える地域にしましょう。北本市では、市民の皆さんの自治会加入を促進しています。

### 北本市民の心を一つに。

#### 北本市の各自治会が被災地を応援しました。

北本市自治会連合会では、北本市コミュニティ協議会、北本市社会福祉協議会と協力して各地域の自治会へ義援金を募り、いち早く被災地に北本市民の善意の心を届けました。

2011.3.11 東日本大震災 13,380,638円  
2016.4.14 熊本地震 4,492,222円

自治会連合会では、この度の平成30年7月豪雨災害についても、8月1日(水)から募金活動を開始します。



消防団による排水作業の様子



防災会の消火訓練



防災会のAED訓練

## 地域を守る!

# 自主防災会

災害発生時、すぐに頼りになるのは近隣住民。地域で活動する自主防災会を紹介します。

自主防災会は、「自分たちの地域は自分たちで守る」ということを第一に、初期消火、安否確認、救出救護、集団避難、給水給食などを協力して行う、自治会を母体とした団体です。現在、北本市では61自治会に結成されており、地域で活動しています。

### 台風被害のとき

「災害時、実際に活動できる防災組織にしていきたいです。」と語るワコーレロイヤルガーデン北本の防災会長、矢吹さん。自主防災会の重要性を、エピソードを交えお話しいただきました。

「昨日10月の台風21号は、北本市にも被害をもたらしました。朝日地区で行った排水作業は夜通し3日間。その時最前線にいた自主防災会はどのような活動をしていただろうか。」

「当日の朝は台風一過で晴れていました。安心していたところ、近くを流れる赤堀川が急に増水し、あつという間に道路は冠水、自動車も水没しました。最終的にはマンションのエントランスまで冠水し、トイレも使用できなくなりました。」

「朝の通勤後の増水だったので、自主防災会としての人手は、高齢者や女性が中心となりました。限られた人員で、すぐに冠水状況の確認を行い、住民への情報提供、簡易トイレの配布などを行いました。この様子を見て、手伝いを申し出てくれた住民もたくさんいました。」

「課題は多く見つけましたが、非常時こそ共助の大切さ、地域で地域を守る重要性を実感しました。」

## 地域で地域を守る

重要性を実感しました。



ワコーレロイヤルガーデン北本  
防災会 会長  
矢吹 弘道さん

### 消防団に感謝

「当日、力を発揮してくれたのが地元消防団でした。消防団の皆さんには、仕事のあつ中、丸2日間排水作業などを行っていただきました。全6分団が駆けつけてくれた感謝の気持ちでいっぱいです。改めて消防団の存在の大きさを痛感しました。」

### やはり自助・共助が大切

「被害を経験し、改めて共助の仕組みづくりと自助の啓発活動が大切だと感じました。毎年行っている防災訓練・防災講習会では、多くの人が楽しく参加できるよう、もつと工夫していきたいです。また、日々の自治会活動も大切にしたいです。これらの活動から会話が生まれ、非常時の助け合いにつながっていくと思っています。」

### ワコーレ防災会の工夫

**1 防災マニュアル冊子を作成**  
災害に備え、何を準備し、その時どのように行動するかをマニュアル冊子を作成し、全戸配布しています。

### 2 安否確認訓練

玄関に色分けした安全確認ラベルを貼ることで外部に自分の安否をいち早く伝えます。



避難しました

無事です

救護してください

ワコーレ自治会は、950戸を超える住宅があるので、確認ラベルは災害発生後の安否確認が短時間ででき、救出等の要否を即座に把握できることから、大変有効な訓練です。戸建ての自主防災会では、「無事」を表す色付きタオルを玄関先に掲げて行い、全70戸を10分で確認できたという事例もあります。

## 8月4日 埼玉県消防操法大会に出場する消防団の皆さん



消防団第3分団

左から、山本 浩之(農業)、安藤 裕也(公務員)、清水 宏典(農業)、道祖土 直樹(自営業)、岩崎 勉(自営業)、深谷 久志(自営業)  
(敬称略・括弧は職業)



消防団第4分団・第6分団の選抜隊

左から、新井 剛(農業)、横山 健(会社員)、新井 啓佑(農業)、成井 聡一(会社員)、山越 千尋(会社員)、新井 樹里(団体職員)  
(敬称略・括弧は職業)

## 総合防災訓練を実施します

**8月19日(日) 9:30~11:00**

**会場 北本市役所(本町1-111)**

**小雨決行**

(訓練当日は8:30に防災訓練の一環としてサイレン吹鳴試験を行います)



大規模災害への備えとして、自主防災組織、消防団、公共機関とともに市民の皆さんが参加できる体験型の防災訓練を実施します。災害時に必要な行動が実際に体験・確認できますので、ぜひご参加ください。

各訓練を体験するとその場でスタンプがもらえるスタンプラリーを行いますので、お子さんも一緒に楽しく参加できます。スタンプを集めると、炊き出し訓練で作ったトマトカレーがもらえます!

### 【主な訓練】

- 子ども放水訓練
- みんなで覚える防災クイズ
- 三角巾を使った応急救護訓練
- 防災ヘリ情報伝達訓練
- 家具転倒防止コーナー
- ローリングストックコーナー
- さわって試せる防災グッズコーナー 他

関くらし安全課危機管理・消防防災担当(☎594-5523)

## 地震・洪水ハザードマップの活用を!

市では、避難行動に役立つ「地震・洪水ハザードマップ」を作成し、配布しています。くらし安全課で配布しているほか、市ホームページからもダウンロードできます。



地震



洪水

## 地域を守る!

# 消防団

仕事をしながら、地域の安心・安全を守るため活動している北本市消防団を紹介します。

消防団員は、消防署に勤務する地方公務員とは違い、別の仕事をしながら有事の際には、消火活動や災害対応をするボランティア的存在です。火災などの災害が発生すると、仕事中でも現場に駆けつけ、地域のために活動します。北本市には6つの分団があり、総勢132人の団員が地域で活躍しています。

「北本に暮らす人々たちを守りたい。これは団員みんなの願いです。」と語る、北本市消防団長の広川さん。消防団活動に対する想いをお話しいただきました。

### 消防団員の活動

「消防団は、火災や災害発生時の消火・救出活動とその他のための訓練、火災予防の巡回活動などを行っています。団員のほとんどが平日に仕事をしているので、夜間や休日に活動を行い、日ごろから災害に備えています。」

### 北本を消防団全員で守りたい

「団員の皆さんは仕事をしながらも、なぜ高い意識を保っているのでしょうか。」

「地域のことは、そこに住んでいる自分たちが一番よくわかっていて、歴代の消防団の先輩たちから受け継いだ『自分たちの地域は自分たちで守る』という強い意志を団員みんなが持っているからです。全消防団員が全力で愛着ある北本市の地域を守り続けていきたいと思っています。」

### 市民の皆さんへ

「消防団は、火を消すのが仕事と思われがちですが、日ごろの火災予防活動が主な仕事です。北本市内から火災等の被害が起

## 22年ぶりに「埼玉県消防操法大会」に出場

8月4日に鴻巣市の防災学習センターで行われる「埼玉県消防操法大会」に、北本市消防団が22年ぶりに出場します。操法大会は、日ごろの訓練で培った消防操作技術を競い合うもので、優勝チームは全国大会に出場します。消防ポンプ車両を使って目標物に放水する基本動作の正確性とタイムを競います。優勝を目指し、4月から北本消防署の協力のもと週に4回訓練を行い頑張っています。市民の皆さん、応援よろしくお祈りします。



大会に向けて夜間訓練をしている様子

## 愛着ある地域を 守り続けたい。

「北本に暮らす人々たちを守りたい。これは団員みんなの願いです。」と語る、北本市消防団長の広川さん。消防団活動に対する想いをお話しいただきました。

「また、消防団の活動について、もっと多くの市民の皆さんに知っていただけたら嬉しいです。それが私たち消防団員のモチベーションにもつながります。」



北本市消防団 団長  
広川 明彦さん